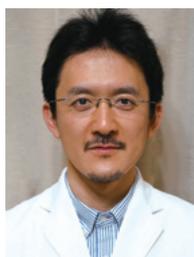


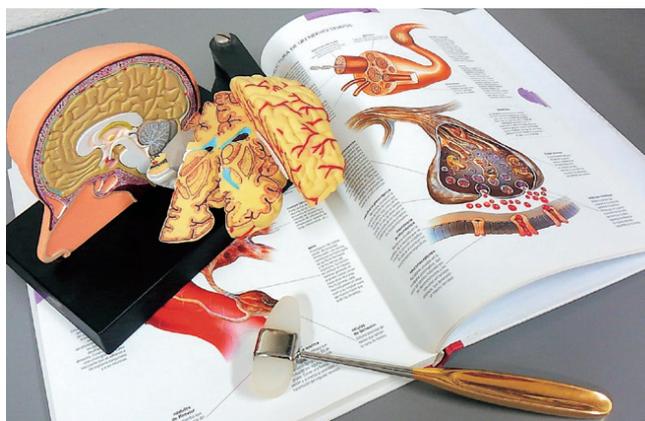
脳神経内科専門医プログラム



プログラム責任者

消化器内科学・脳神経内科学講座
華園 晃 病院講師

専門研修担当者連絡先
 華園 晃 病院講師
 TEL.018-884-6104 FAX.018-836-2611
 E-mail hanazono@doc.med.akita-u.ac.jp
 (タイトルに「専攻医希望/問い合わせ」と明記してください)
 HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika/>



プログラムの特徴

秋田県内の神経難病、神経免疫性疾患の診療、学生教育に力を注いでいます。少人数で診療していることから、診療内容が偏る事なく、脳神経内科専門医に必要な多彩な疾患を経験できます。血管障害、認知症、てんかんなどのcommon diseaseはもちろん、大学病院ならではの希少疾患を経験できることは、幅広い診療技能を得ることに繋がります。地域医療への貢献も大きく、脳神経内科医として早期から活躍できるため、医師としての充実感を感じられます。一方で、医局、カンファレンス等で気軽に相談できる環境が整っており、自信をもって診療できるまで、繰り返し上級医からフィードバックを受けられる体制です。

プログラムの説明

神経内科はcommon disease(頭痛、てんかん、認知症、脳血管障害)から、神経難病、末梢神経疾患、筋疾患に至るまで、多くの疾患を扱い、全身を診る診療科であり、総合診療を将来目指す医師にも一つのキャリアプランとなりえます。高齢化に伴い、かつては稀な疾患と思われていた神経変性疾患、特にパーキンソン病などは、今後コモディティーズになっていくと考えられます。神経免疫疾患(重症筋無力症・多発性硬化症やその関連疾患等)も患者数が増加傾向にあり、一方で適切な治療により患者さんの予後・生活の質を大きく上げることができます。かつては治らない疾患ばかりを扱うイメージが強い診療科でしたが、状況は様変わりし、新薬の開発・進歩が著しい診療科です。脳外科との連携も深く、脳卒中包括医療センターや、神経救急当番を分担して担い、脳外科の先生からも常にアドバイスをいただける環境です。専門科・専門施設での、小児神経、神経放射線、神経病理などのオプション研修も可能です。内科専門医取得後に神経内科専門医を取得できるように、早期から症例の登録をサポートします。学位取得においては、日々の豊富な臨床経験の機会を背景として、そこでの気づきをきっかけに臨牀的・基礎的な研究テーマを掘り下げることができます。

(図)にあるように、脳神経内科医師は特に秋田県では不足しています。当科は、今後患者数が急増する、治療の進歩が著しい診療科です。しかし、秋

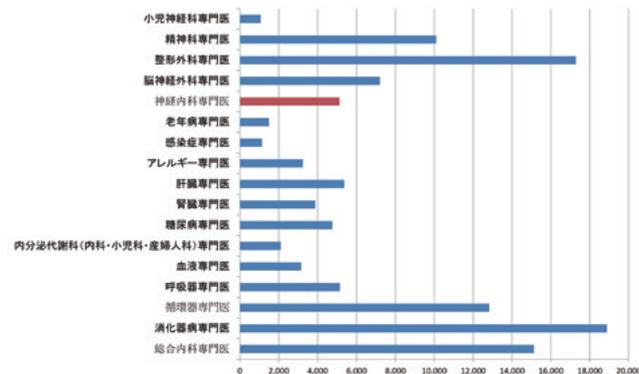
取得までのキャリアパス



内科研修*: 研修カリキュラム、研修手帳(疾患群目録)、技術・技能評価手帳に従って必要な症例をもちろなく経験。神経内科に所属しながら、他内科での研修も可能。
 神経内科専門研修は大学の他、市立秋田総合病院、大曲厚生医療センター等と連携して実施。市外への診療応援で経験を積む。脳卒中医療包括センター、神経放射線、小児神経、神経病理での研修を組み込み可能。

◆主要なサブスペシャリティ: 脳卒中専門医、認知症専門医、てんかん専門医、頭痛専門医等

田県で脳神経内科医が少ないことは、県民にとって大きな不利益となっており、それを解決しようという仲間が増えることを心から願っています。当科におけるこれまでの留学先:DUKE大学、東京大学、国立精神・神経医療研究センター。希望に沿って、国内、国外の留学先を紹介できます。



専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

- 各種学会認定専門医数
日本神経学会指導医 1名、専門医 3名
- 指導担当医師数と出身大学・出身高校
○指導担当医数…4名
○出身大学・出身高校…秋田大学、岩手医科大学、秋田高校、青森高校など
- 各種学会施設認定
日本神経学会教育施設
- 主な連携病院
秋田労災病院、大湯リハビリ温泉病院、男鹿みなと市民病院、秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、秋田県立脳血管研究センター、中通総合病院、由利組合総合病院、本荘第一病院、由利本荘医師会病院、大曲厚生医療センター、大森病院、田沢湖病院、雄勝中央病院、国立病院機構あきた病院、市立秋田総合病院(図)

